

## 第 16 回静岡県新型コロナウイルス感染症対策専門家会議（要旨）

### 1 感染流行期の評価について

- ・ 以下の 4 項目がステージⅣの基準に達していることから、事務局案としては、国ステージは『ステージⅣ』、県の感染流行期は『感染まん延期後期』に引き上げたい。
  - ① 1 週間の新規感染者数は 25.44 人/10 万人/週と 25 人以上
  - ② 入院率は 17.2%と 25%を下回る
  - ③ 全療養者数は、直近で 1,167 人（32.06 人/10 万人/週）と 30 人/10 万人/週以上
  - ④ 先週と比較すると今週 1 週間の新規感染者数は 1.72 倍に増加

#### <委員意見等>

- ・ 出席委員全員が『ステージⅣ』、『感染まん延期後期』に変更」との意見に賛成。
- ・ 現在、東部地域の感染者数が多いが、静岡市や浜松市でも増えてきており、他の地域でも近いうちに感染者数の増加が見込まれる。一部の地域ではなく、県全体で対応をしていく必要がある。
- ・ 『ステージⅣ』への変更に伴い、緊急事態宣言を行うよう、県から国に対して要請してもらいたい。

### 2 感染者急増時の医療・療養体制の整備について

- ・ 感染者の急増に対応するため、受入病床を確保する必要がある。  
方策としては、①更なる病床確保 ②病床回転率の向上
- ・ 国は、入院適応患者を中等症以上に変更するという方針を打ち出した。本県として、国の方針どおりに入院適応を変更するか。

#### <委員意見等>

##### ○ 医療・療養体制整備について

- ・ 病床確保については、急性期を過ぎた患者を早期に転院・退院（宿泊療養または自宅療養に移行）させる方策を考えるべき。
- ・ 更なる病床確保に努める。
- ・ これまで、コロナ患者を受け入れていない病院にも、コロナ患者を受けてもらい負担を軽くしてほしい。
- ・ 東部地域の病床が逼迫しており、また、ステージⅣの新たな局面となるので、県立がんセンターにもコロナ患者を受け入れてもらいたい。
- ・ 本意見は事実誤認。がんセンターではコロナ患者を受け入れ、診療を行っている。また、東部地域のがん医療崩壊を招かないことががんセンターの使命である。
- ・ 中等症Ⅰ以下でリスク因子ありの患者に対し、抗体カクテル療法を積極的に実施できるようにしていくべき。
- ・ 診療所の医師に、コロナ患者の治療（発熱者に対する投薬管理等）に関与していただきたい。
- ・ 新たに志太榛原地区に宿泊療養施設を確保すべき。
- ・ ホテル療養者について、医師が継続的に診ていく支援が必要ではないか。掛川のホテルと中東遠総合医療センターとの連携はモデルケース。
- ・ DMAT、FICT が、保健所やホテル療養のサポートを行うことは可能。
- ・ 保健所の体制強化を早急に行うべき。

### ○ 入院適応基準の変更について

- ・ 中等症 I の患者も一定程度悪化することがあるので、病院で管理する必要がある。

\* 本会議の意見を、8月5日開催の医療専門家会議に報告したうえで、意見を求める。

### 3 県民へのメッセージについて

#### <委員意見等>

- ・ 本県はこれまで感染が抑えられていたが最終ステージに達し、最大局面となった。
- ・ 原因はデルタ株、これまでで最も感染力が強く（ウイルス量は従来株の1000倍、実効再生産数はアルファ株の2倍）、別次元のウイルスという認識を持ってもらいたい。
- ・ 家族以外、多数の人が集まる場所を制限すべき。
- ・ オリンピックの有観客について、会場内は感染対策がされており、観客も注意しているため、そこで感染が広がるとは思われないが、会場周辺に人が集まること、県民が自分たちも集まってイベントを開催してもいいというメッセージになってしまうことが懸念される。
- ・ 医療機関も最大限の努力をしているが、医療体制は非常に逼迫している。この難局を県民全員で乗り越えるために、県民の皆様にも感染対策の協力をお願いしたい。
- ・ 若い人はワクチンを怖がっている人が多い。日本人の接種データも集まっているのでそれを示し、活動範囲の広い年代の方には是非ワクチンを接種してもらいたい。

\* 県民に対し、デルタ株の威力を示したうえで、家族以外、多数の人が集まる場所を作らない、行かないなど、更なる感染対策への協力をお願いする。  
若い世代へのワクチン接種の勧奨に努める。